

フィリピン台風被災地訪問の報告

JEA 援助協力委員会 岩上敬人

1月21日（火）―25日（土）JEA からの派遣で、総主事の品川謙一先生、委員長の松本順先生、そして委員の岩上、以上三名でフィリピンの台風被災地を訪問致しました。私たちが訪問した地域は、昨年11月にフィリピンを襲った台風ハイヤン（フィリピン名はヨランダ）で大きな被害があったレイテ島、サマール島、セブ島北部（フィリピン中部のビサヤ諸島と呼ばれる地域）です。今回の旅行の目的は、被災から二か月半ほどが経過している中で、フィリピン福音同盟（PCEC）による被災地支援の働きを視察し、日本の教会がどのようなお手伝いができるのかアセスメントをすることだと理解していました。旅行前から海外の被災地を巡ることは容易なことではないことを受け止めつつ、主が何を私たちに見せ、示して下さるのか祈りながら参加しました。

21日（火）午前9時半の飛行機で成田からマニラに飛びました。その日はフィリピン福音同盟関係の宿舎に泊めて頂き、旅行の準備をさせて頂きました。翌22日（水）から被災地の訪問が始まりました。今回の視察旅行を案内して頂いたのはフィリピン福音同盟・総主事であるエフライム・テンデロ先生と台風被災支援の最前線でリーダーシップを取っておられるダニエル・パントハ先生です。



22日（水）の早朝、マニラからセブ島に飛行機で飛び、セブ・シティでパントハ先生と合流してから、小型高速艇で海路4時間かけて、セブシティからレイテ島のオルモックに渡りました。外海に出るとかなりの時化でした。小さな船の中で大波に翻弄されながら、被災地に到着する前に自分たちが被災するのではと思うほどでした。主のあわれみで後半は時化も収まり無事にオルモックに到着できました。

オルモックは日本ではあまり耳にしない町ですが、レイテ島北西部（ちょうどタクロバンの反対側）に位置する港町です。現地に到着して、地域の牧師先生方と交わりの時を持ちました。夕刻、オルモックの町を徒歩で回り、フリーメソジスト教会を訪問させて頂きました。教会の屋根は修理が終わっていましたが、牧師館はまだ手つかずの状態、エリック先生ご家族は、教会の中で生活をしておられました。家を失った教会員の方々に牧師への支援物資を渡しておられ、エリック先生の犠牲的な奉仕の心に心を打たれ、また現地の必要の大きさと厳しい現実を目の当たりにしました。その後オルモックの牧師会の先生方が集まり、ともに夕食を囲んで交わりのひと時を持ちました。先生方一人一人から被災時の証を伺いました。それぞれ死の恐怖を覚えるような経験を通りながら、主が守ってくれたことを感謝して、とても明るく喜びと感謝に溢れておられました。また台風後、地域の方々が礼拝出席をするようになり、礼拝出席者が5-10倍になっているという報告も伺い、主の御名を皆で崇めました。文化や国民性の違いがあることも感じながらも、それでも先生方の明るく前向きな支援活動の姿勢に大きな感銘を受けました。



23日（木）の早朝、車でオルモックを出発して、フィリピン福音同盟の被災地支援活動（特に仮設住宅の供給）の様子を見学しながら、タクロバンに向かいました。途中、壊滅的な被害を受けた地域に何か所か立ち寄りました。一番印象に残っているのは、被災者の方々埋葬された墓地を訪問した時です。そこは遺族の方々の悲しみに包まれた場所でした。一人一人の生きてきた証を墓標に見ながら、多くの



人々が大切な家族を失い、深い傷を受けていることを肌で感じました。これから長い時間をかけて復興に向かっていくことになると思いますが、被災者であり遺族である方々への心のケア・スピリチュアルケアの大きな必要があることを痛感しました。

午後、タクロバンに到着して、市役所を訪問してタクロバンの副市長、教会のリーダー、支援団体の代表、テンデロ先生方とのミーティングに参加させて頂きました。副市長からタクロバンの課題として①政治的課題（フィリピン政府から支援金が下りてこない）②仮設住居の不足③子どもたちのトラウマケア④ビジネス・雇用の流出というとても深刻な問題を伺いました。今後のタクロバン復興に向けて教会、支援団体、自治体が連携を深めながら計画を立てていくことが話し合われました。

24日（金）早朝、タクロバン空港からセブ島に飛び、すぐに車でセブ島北部に向かいました。ダーンバンターヤンという町は風による被害が大きく、倒壊し、また屋根が飛んでいる家が多く残っていました。ここでもフィリピン福音同盟の家屋修理支援活動の様子を視察しました。

こうして被災地のすべての視察を終え、翌日25日（土）夜に無事に日本に帰国致しました。福音的な教会が一つとなって支援活動をする様子と地域社会に大きな支援を提供している姿に大きなチャレンジを受けて帰ってきました。背後でお祈りをくださった皆様に心から感謝しつつ、報告と致します。

